



<雑録>経済卜技術(2)

増井, 光藏

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 18(2):323-334

(Issue Date)

1915-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/00052328>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052328>



經濟ト技術 (其二)

商學士 增 井 光 藏

二 經濟ノ本質

吾人ハ劈頭此處ニ吾人ノ所謂精神的經濟觀ノ概要ヲ豫メ掲グルヲ適當ナリト信ズ。經濟ノ本質ハ決シテ或ハ其對象ニヨリ、或ハ外界自然トノ關係ニヨリ、或ハ活動ノ性質ニヨリテ定マルモノニアラズ。經濟ハ畢竟一箇ノ精神的現象ニシテ、假ニ處理 (ein Desponieren) ト稱シ得ベキ程ノ特種ノ商量ナリ。然レドモ茲ニ注意スベキハ、吾人ハ決シテ從來ノ學說ノ如ク、初メニ此見解ヲ取リナガラ、途中ヨリ忽チ彼ノ技術的唯物的思潮ニ卷キ込マレテ、經濟學上ノ基礎概念ヲ全ク數量的ニ考ヘントスルモノニアラズ。吾人ノ所論ニ於テハ常ニ精神的特質ヲ以テ終始シ、經濟上一切ノ基礎概念即チ利用ノミナラズ費用ニ至ルマデ、又一切ノ收益即チ消費收益ノミナラズ貨幣收益及各種ノ所得ニ至ルマデ、總テ從來ノ學者ノ如ク財或ハ貨幣ノ數量ナリトハ考ヘズ、之ヲ價値附ケ概念ト見做スモノトス。隨テ經濟學上『生産要素』テフモノアルナク、アルモノハ唯ダ費用要素ノミ。又技術的數量的ニシテ勞動時間ニヨツテ計算スベキ勞動ナルモノアルナク、アルモノハ唯ダ勞動苦痛乃チ一種ノ費用ノミ。此故ニ不幸ニシテタトヘ吾人ノ使用スル用語ガ舊套ヲ脱セズトスルモ、一切ノ基礎概念ハ全ク新ラシキ意義ヲ有スルモノナラザルベカラズ。

(一) 總論

吾人ハ吾人ノ學說ヲ一層明瞭ナラシメンガタメ先ツ先人ノ見解ニ就テ吟味スベシ。既ニ述タル如ク經濟トハ處理ノコト也、而シテ處理トハ畢竟一種ノ精神の現象タルコト疑ナシ。是レニ就テハ前述フオイヒト以前既ニハイン(O. Hein)アリ、氏ハ千八百九十七年已ニ其價值論ニ於テ經濟ヲ定義シテ、與ヘラレタル手段ヲ處理スルコトナリトセリ。

然ルニ此定義ニテハ、第一、經濟ト技術トヲ區別スベキ最重要ナル點即チ目的ノ說明ヲ缺キ、第二、手段ヲ『與ヘラレタルモノ』ト見做スハ謬見ニシテ、且ツ之ノ如キハ必ズシモ經濟の職能ニ固有ノモノニアラズ。即チ氏ノ說ハ多クノ點ニ於テ肯綮ニ當レルモノナレドモ、之ヲ定義ト稱スルハ未ダシ。要スルニ緻密ナル研究ヲ缺キ、タゞ『價值概念』ノ中ヲ逍遙スルニ過ギザルヲ以テ、國民經濟ノ現象ヲ說明スルニ足ラザルナリ。與ヘラレタル手段ヲ處理スルコトハ、經濟ノ本質タルト同時ニ亦全ク技術ノ内容タルベキモノ、且ツ古來經濟ノ定義中ニ『計畫的遠慮的』(Plannösse, Vorsorgliche)ノ語アリ、又家計ヲ以テ經濟ノ本質ト見做サル、風アリ、旁々經濟ニ就テ精神の動機既ニ言ヒ現ハサレ居ルニアラズヤト謂フ者モアルベシ。然シナガラ經濟ノ概念ヲ定ムルニ際シテハ偶發的ナル此種ノ一切ノ精神の動機ノ商量ハ經濟學說ニ於ケル實際上ノ精神の基礎ト相去ル甚ダ遠キモノニシテ、前者ハ再ビ唯物的の見解ト抱合シ得ルモノ也。フオイヒト及ハイン兩氏ノ所謂經濟ノ概念ノ如キ即チ是ノ場合ニシテ、彼等ハ經濟ノ目的ニ就テハ一語モ費サズ、唯一定ノ財ノ數量ヲ與ヘラレ

タルモノト見做セリ。

從來ノ經濟學說ノ不完全ナルコトハ何人モ之ヲ認ムレドモ、其原因ガ經濟ノ本質ヲ適當ニ認識セザルニ存スルコトヲ悟ル者極メテ稀ナリ。即チソハ廣大ナル分業ニ因ハレ、且ツ貨幣ヲ恰モ價值ノ客觀的尺度ノ如ク誤解シタル結果、生産ナル技術的活動及其際營ム特殊ノ商量ヲ以テ、全ク經濟其物ナリト誤認シタルニ基クモノナリ。而シテ吾人ハ斯ノ如キ技術的物質的經濟觀ヲ斷ジテ非ナリト謂フモノ、從ツテ吾人ノ言說中會々傳來ノ用語及字句存スルコトアルモ、之レ全ク異リタル精神的見解ニ基キ異リタル意味ニ於テ使用スルモノ也。今日ノ通說タル物質的數量的經濟觀ト吾人ノ所謂精神的經濟觀トハ、其根底ニ於テ全然相容レザルモノニシテ、經濟學上複雜ナル無數ノ難問題ハ何レモ其源ヲ此處ニ發セリ。此兩者ノ間ノ關係ハツウイヂテツクノ謂フ如ク、『是ト共ニ彼』ニアラズシテ、タゞ『是カ然ラズンバ彼』アルノミ。假リニ財及貨幣ノ數量ノミヲ以テ經濟ノ目的ト見做スヲ得バ、一切ノ主觀的價值判斷ト沒交渉ナル純數量的ノ經濟理論即坐ニ成立シ得ベケンモ、嘗テ之ノ如キ理論ノ成立セシヲ聞カザリキ。然ラバ從來ノ經濟學ガ數十年來企テ、成ラザリシ其遺髮ヲ襲ギ依然經濟現象ヲ個人ノ慾望ノ感ヨリ説明セントスルカ、サラバ今尙ホ物質的數量的ニ考ヘラレ居ル一切ノ基礎概念ヲ潔ク放擲セヨ、若シ已ムヲ得ズ舊來ノ用語ヲ使用セザルベカラズトセバ、的確ナル精神の見解ヲ以テ其意義ヲ補足セヨ、就中、貨幣的現象ニ就テハ常ニ注意シテ其價值判斷ニ着眼シテ、其數量ニ因ハル、勿レ。斯クテ經濟理論ハ全ク面目ヲ一新シ、經濟ノ本質ヲ誤解セシタメ起

リシ大問題ハ地ヲ掃ヒ、分配論及所得論ハ『生産要素論』ト袂ヲ別チ、新ラシク價格論ト合體スルニ至ラン。

假リニ今、數量的物質的經濟觀ノ代表者トシテ從來ノ經濟學者ノ重ナルモノヲ捉ヘ來リ、之ニ對シテ自由ナル批評ヲナスヲ許サル、ナラバ、經濟ヲ以テ處理スル事ナリトスルハイン、經濟ヲ以テ最高限ノ追求ナリトスルフオイヒトノ如キ論者ハ一勿論後ニ至ツテ忽チ唯物的の見解ニ墮スルナレド一經濟ヲ以テ『財貨ニヨリ人類ガ其慾望ヲ永久的ニ充足セントシテ行フ一切ノ過程及施設』トスルフイリポウイツチ、『慾望ニ促サレテ物ニ對シテ營ム活動』トスルヂーツエル、或ハ經濟ノ職能ヲ以テ『一定ノ社會制度内ニテ如何ニシテ財ノ生産ガ社會的過程トナリ得ルカ、又斯ノ如キ社會的過程中心ニテ諸種ノ方法ニテ其生産ニ參與セシ各員ガ、如何ニシテ其生産物中ヨリ其配分ヲ受クベキカ』ニアリトスルレキシスノ如キ極端ナル唯物觀ノ代表者ニ比スレバ、寧ロ吾人ノ見解ニ近キモノト謂フベキナリ、就中、フオイヒトガ經濟ノ特質ヲ目的ト手段トノ對立ニ置カント試ミシハ、確ニ一段ノ進境ヲ示スモノ、即チ氏ハ既ニ經濟的職能トシテ最高限問題、乃チ手段ノ最少使用ニヨル目的ノ最大限テフ主義ヲ認メ居タリト謂フベキナリ。此主義ハ從來一般ニ經濟的主義ト呼バル、ヲ常トシ、其名已ニ經濟其物ト密接ノ關係アルヲ想ハシムルニ足ル。從テ經濟ノ定義ニ此主義ヲ利用セント志シタル學者其數極メテ多ケレドモ、何レモ失敗ニ終レリ。或ハ又經濟的主義ハ經濟ノ範圍以外ニ亘リ、廣ク一切ノ合理的活動ノ根本原理タルベキモノナリト稱スルモノアリ。然ルニフオイヒトハ前

段ニ引照セシ如ク、斷然此經濟的主義乃チ目的ト手段ト對立ヲ以テ、經濟ノ意義ヲ確定セント試ミタルモノナリ。而モ彼ニ二箇ノ重大ナル缺點アリテ、亦從來ノ物質的數量的經濟論者ノ列ニ伍セザルベカラザルヲ惜シム。即チ氏ハ(一)慾望充足ノ最高限以上ニ經濟ノ目的ニ關シテ何等謂フ處ナク、(二)手段ヲ與ヘラレタルモノト見做シ、經濟ヲ定義シテ與ヘラレタル手段ヲ處理スルコトナリト謂ヘリ。故ニ吾人ハ先ヅ此二方面ヨリ經濟ニ關スル吾人ノ見解ヲ説明シ、次ニソノ技術トノ關係ニ論及スルヲ以テ適當ナリト信ズ。

(二) 經濟ノ目的

經濟ノ目的ハ慾望充足ニアリトスルノ一點ハ、衆論ノ略ボ一致スル處ナレドモ、之レガ解釋ニ就テハ必ズシモ其規ヲ一ニセズ。其多數ハ之ヲ以テ最大限ノ享樂或ハ快感ノ獲得ト解セルモノ、如シ。之レニ反對スル者ハ最高限ノ享樂ノ追求ハ廣ク人類ノ目的ニシテ、經濟ノ範圍以外ニ亘ルモノナリト謂フ。論ヤ正シ。斯クテチーツエルフイリホウイツチ等ノ如キ極端ナル外物的客觀的經濟論者スラ、經濟トハ財貨ニ關連シテ營ム慾望充足ノミヲ謂フト辯疏スルニ至ル。此見解ハ、人類活動ノ大部分ガ各種ノ人的給付及非物質的財ト關係スルニ拘ラズ、通常經濟ト呼バレ居ル實情ニ照シテ、到底成立シ難キモノナリ。茲ニ於テカ一派ノ學者ハ輕卒ニモ、交換經濟的現象ノミヲ以テ經濟ナリト説明セントスルニ至ル。

假リニ此說ニ從ヒ交換經濟的現象ノミヲ以テ經濟ナリトセバ其結果如何。自然經濟狀態ニアル百

姓ハ經濟ヲ營マザルナリ。然ラバ其百姓ガ其生産物ノ一部分ヲ販賣セント決心シナガラモ、尙ホ自己ノ經濟内ニ之レヲ消費シツ、アル場合如何。其穀物が實際ニ販賣セラレタルトキヨリ、突如トシテ經濟ガ始マルヤ否ヤ、又其穀物販賣ノ範圍内ニ於テノミ彼レハ經濟ヲ營ムモノナリヤ否ヤ。或ハ其使用スベキ財ノ一部分ヲ自ラ生産セシ往時ノ家族經濟ノ如キハ如何。彼等モ亦自己生産ノ範圍内ニ於テハ經濟ヲ營マズト謂フベキヤ否ヤ。斯ノ如キ區分ハ到底不可能ナリ。自然經濟ヲ營ム百姓モ彼ノロビンソンクルーソーモ均シク、今日ノ流通生活内ニアル人々ト同一ノ主義ニヨツテ活動セルモノニシテ、經濟ヲ營ムノ點ニ於テハ一ナリ。勿論同一ノ主義ニヨツテ活動スト謂ヘバトテ、必ズシモ彼等ノ生活狀態ガ流通生活内ニアル人々ノ生活狀態ト、著シク其面目ヲ異ニスルコトヲ否定スルモノニアラズ。タゞ學問ノ任務ハ同一用語ノ内ニ存スル實際上ノ普汎の共通の要素ヲ捕捉シテ、之ヲ説明スルヲ以テ足ル也。

果シテ然ラバ吾人ハ先ヅ經濟ノ範圍以外ニ亘ツテ廣ク適用セラレ、而モ亦經濟トハ密接ナル特別ノ關係ヲ有スル、此經濟的主義ナル用語ノ研究ニ着手スルヲ以テ、最モ當ヲ得タルモノト信ズ。吾人ハ第一ニ經濟的主義テフ此用語ニ果シテ、特ニ經濟的活動ノ特質ヲ指示スルニ足ル程ノ特定の意義アリヤ否ヤニ就テ吟味セザルベカラズ。通常經濟的主義ハ種々ノ意味ニ解セラレ、或ハ最大效果ノ主義或ハ最少手段ノ主義或ハ兩者ヲ結合シテ、手段ノ最少使用ニヨル最大效果ノ主義トナスアリ。此最後ノ解釋ニヨレル此主義ハ(形式ノ一面ニシテ内容ノ他面ヲ缺ケドモ)實ニ經濟ノ根本原理タル

コト疑ナケレドモ、之レノミニヨリテ經濟ノ定義及ソノ技術トノ區別ヲ説明セントスルハ未ダシ。
吾人ハ此經濟的主義ヲ最大限及最少限ニ關スル主義トシテ、同時ニ種々ノ方法ヲ以テ言ヒ現ハシ
得ベク、且ツ斯クシテ初メテ其普汎の意義ヲ捕捉シ得ベキコトヲ信ズルモノナリ。先ヅ之ヲ純論理
的ニ言ヒ表ハサバ、手段及目的ニ就テ特定セザル場合ニ、手段ノ最少使用ヲ以テスル最モ完全ナル
目的ノ遂行ト謂ヒ得ベシ。此ノ如ク純論理的ノ衣ヲ纏ハシメテ、アベナリウスハ此主義ヲ以テ論理
學ノ根本原理ナリトセリ。之ヲ心理學ノ立場ヨリ謂ハバ、最少ノ苦痛ヲ以テスル最大ノ享樂或ハ快
感ノ獲得トナル。之ヲ經濟學ヨリ視レバ、最少ノ費用ヲ以テスル最大ノ利用ノ獲得トナリ得ベシ。
而シテ此意味ニ於ケル經濟的主義ハ、從來屢々經濟學者ノ研究ニ上リタレドモ、其際彼等ハ何レモ
一箇ノ根本的誤謬ニ陥ルヲ免ル、能ハザリキ。而シテ彼ノ技術的物質的經濟觀即チ是レ也。

然ラバ如何ナル方法ニヨツテ經濟的主義ヲ通ジテ經濟ノ本質ニ肉薄スベキカ。尤モ經濟ヲ以テ最
大限ヲ追求スル職能ト見ルコト勿論也。サレド最モ完全ナル慾望充足、最モ大ナル快感、是レ人類
ノ抱ク最モ普汎的ナル目的ニアラズシテ何ゾヤ、此ノ如キ目的ハ經濟ノ範圍ニ屬セザル他ノ一切ノ
活動ニ際シテモ存在スルニアラズヤ。サレド茲ニ考フベキモノアリ。斯ノ如キ普汎的目的ハ實際ニ
於テハ分裂シテ無數ノ特殊的目的、即チ絶エズ交互ニ出現スル強度ノ異ナル諸種ノ慾望トシテ現レ
來ル。又此等ノ慾望ヲ充足センガタメニハ、各其程度ヲ異ニスル犠牲乃チ費用ヲ要ス。而シテ費用
トシテ第一ニ現ハル、モノハ勞働苦痛ナリ。使用セシ手段以上ニ餘剩ノ目的完成ヲ贏チ得ントノ希

望ヲ以テ、此ノ如キ費用ヲ依ツテ得ラルベキ利用ト比較スルハ、一般合理的活動ニ際シテ見ル處ナリ。故ニ經濟の商量及經濟的活動ガ他ノ一切ノ合理的の商量及合理的的活動ト異ル點ハ、其目的ノ慾望充足ナルコトニアラズシテ實ニ、經濟的活動トハ最大ノ享樂ヲ得ントノ標準ノ下ニ、多數ノ特殊の目的乃チ充足スベキ多數ノ慾望ヲ相互ニ比較シ、更ラニ此等ノ各慾望ト其タメニ使用スベキ各手段トヲ比較スルコトナリ。故ニ經濟ヲ抽象的ニ定義シテ、諸種ノ利用乃チ得ントスル利用ノ總量ヲ其費用ニテ比較スルコト、モ謂ヒ得ベシ。經濟ノ特質ハ實ニ慾望充足ヲ計ラントスル多數ノ異レル目的ヲ比較スルコトニアリ。吾人ガ前ニ經濟ノ本質ニ就テ用ヒタル『處理』テフ語ハ此意義ニ於テ解スベキ也。

慾望充足即チ慾望充足ノ最高限テフ用語ニ就テ誤解アルベカラズ。慾望充足ノタメニスル手段ノ使用ハ必ズシモ悉ク經濟ニアラズ、慾望充足ヲ目的トシテ經濟的主義ニ從フテ行フ一切ノ活動必ズシモ悉ク經濟ニアラズ、又慾望充足ニ當ツテ手段ノ最少使用ニヨル效果ノ最大、必ズシモ悉ク經濟ニアラズ、經濟ノ存在スルハ、普汎のナル慾望充足即チ快感ヲ異レル多數ノ快感ニ分割シテ追求シ其各快感ガ分割セラレシ種々ノ大サニ於テ其一部分ヲ形成スル場合ナリ。各經濟主體ガ實際ニ於テ之ノ如キ快感ノ分割ヲ行ハザルベカラザルニ至ル理由ハ、第一、慾望或ハ快感ノ部分乃チ單位ハ各々異リタル感覺ヲ惹起スコト、第二、之レニ對シテ要スル犧牲乃チ費用モ、亦其單位毎ニ其價值判斷ヲ異ニスルニ依ル。

緻密ナル讀者ハ多數ノ目的乃チ得ントスル利用ヲ費用ト比較スルテフ、此定義ヲ以テ空漠ニ失ストナシ、サラバ經濟存スト謂ヒ得ンガタメニハ幾何ノ利用ヲ費用ト比較スベキヤトノ質問ヲ起スラン。勿論斯ノ如キ質問ニ對シテハ數字の答解ヲ與フルコト困難ナレドモ、コレダケニテモ彼ノ一般の定義以上ニ經濟ノ本質ヲ説明スルニ充分ナルモノアルベシ。更ラニ經濟ニアリテハ、各異リタル費用ヲ要スベキ、多數ノ異リタル慾望充足テフ目的ヲ取扱フモノナレバ、經濟の商量ヲ以テ一般合理的の商量ノ高等ナル形態トモ謂ヒ得ベシ。普通ノ合理的の活動ニ際シテハ、一箇ノ與ヘラレタル目的ニ對シテ諸種ノ費用ノ對立、若クバ數箇ノ目的ニ對シテ與ヘラレタル費用ノ對立アルニスギズ。然ルニ經濟の活動ニ際シテハ、多數ノ目的ヲ取扱フモノナレバ、各箇々ノ利用ガ其費用ト對立スルノミナラズ、更ニ普通合理的の活動ノ場合ヨリモ一層緻密ニ、此利用及費用ノ比較ガ、總テノ利用ト總テノ費用ノ相互間ニ亘ツテ行ハル、ヲ要ス。換言スレバ各箇々ノ場合ニ就テ費用以上ニ利用ノ餘剩ヲ極メテ完全ニ測定セザルベカラザルニ至ル。斯ノ如キ餘剩ヲ吾人ハ收益ト呼び。經濟純理ニ於テ收益概念ノ根本的意義ハ至ク此點ニ存ス。從テ經濟トハ先ヅ得ントスル諸種ノ利用ノ各單位ト之レニ要スベキ費用トヲ比較シテ、其各單位ニ對スル收益ヲ測定シ、次ニ一切ノ諸收益ヲ、最大ノ總收益ヲ收メメントスル目的ト比較スルトコロノ、謂ハハ二重ノ比較ナリ。故ニ約言シテ、經濟トハ費用以上ノ利用ノ餘剩、即チ收益ノ比較ナリト定義スルヲ得ベシ。之ノ如キ完全ナル意味ニ於ケル收益測定及收入比較ハ、實際ニ當ツテモ、經濟ト呼バル、種類ノ商量及活動以外ニ於テハ、決シテ之

ヲ見ルコトナシ。

斯ノ如キ完全ナル收益ノ決定及比較ハ、勿論計算シ得ベカラザル性質ノモノニシテ、一箇ノ純精神的作用ニ過ギザレドモ、之ヲ促ス原因ニ至リテハ、經濟ノ目的タル慾望充足乃チ快感ト密接ノ關係ヲ有スルモノナリ。吾人ノ慾望ハ其本性ニ於テハ無限ノモノナレドモ、之ヲ經驗上ヨリ見レバ各箇々ノ慾望ハ、充足セラル、ニ從テ次第ニ其強度ヲ減ジ、遂ニハ飽滿ノ域ニ達スルモノナリ。然ルニ吾人ハ實際ニ於テハ、自己ノ有スル總テノ慾望ヲ完全ニ飽滿スル迄ニ充足シ能ハザルハ何故ゾ。コレ享樂ハ之ヲ味フコト増大スルニ從ツテ、次第ニ其強度ヲ減ズルニ拘ラズ、享樂ノタメ必要ナル費用乃チ苦痛ハ、増大スルニ從ツテ次第ニ其強度ヲ増スニヨル。故ニ各單位毎ニ充足セラレユク慾望ノタメニ、換言スレバ收益ノ各單位量ノタメニ、其單位量ニ要スル特獨ノ費用以上ニ存スル利用ノ餘剩ヲ一々測定シ、之ヲ他ノ一切ノ慾望ノ總テノ單位量ニ於ケル總テノ收益ト比較スルノ要アリ。隨テ慾望充足ノ總量ノ最高限乃チ經濟ノ目的ハ、收益ノ總量が最大ナル場合ニ實現セラル、モノニシテ、換言スレバ最終ノ利用單位乃チ最終ニ使用セラレタル費用單位ニ就テ得ラルベキ收益乃チ餘剩ガ、孰レノ慾望ニ就テモ其大サ均等ナルベキ程度ニ達スルマデ、各種ノ慾望ニ對シテ費用ノ投下ヲ行ヒ、其限度ヲ超過セザル場合之レナリ。之ノ如キ收益ヲ吾人ハ限界收益ト呼ブ。而シテ此限界收益均等ノ法則ハ經濟純理中最モ重要ナル法則ノ一ナリ。隨テ經濟的活動ヲ限界收益均等ノ主義ニヨル活動ト定義スル亦不可ナラズ。

斯ノ如キ定義ヲ以テスレバ、アル單一ナル活動ニ對シ、直ニ絶對的ニ其レガ經濟的活動ナリヤ否ヤヲ斷定シ得ザルノ理、自ラ判明スベシ。何トナレバ、總テノ活動ハ其背後ニ存スル商量ノ如何ニヨリ、即チ其際使用スベキ手段、及得ラルベキ最高限ノ慾望充足テフニ點ヨリ觀察シテ、諸種ノ活動中孰レヲ選ブベキヤヲ比較決定スル其考察法アリテ、初メテ經濟的ナル特質ヲ有スルニ至ルモノナレバ也。

斯ノ如キ經濟的商量ハソレ自ラニ於テハ、純形式的ノモノニシテ、常ニ同一形態ヲ以テ働ク一般的主義ノ一ニ過ギザレバ、之ヲ各人ニ就テ同ジカラザル動機ト混同スベカラズ。從來ヨリ存セル經濟的主義ナル用語ハ比較的此商量ノ意義ヲ言明シ得タルガ如シ。サレド純理ニ於テハ屢々經濟的主義ハ動機ト混同セラレタリ。經濟的主義ナルモノハ一般の純形式的ノ主義トシテ、動機ト活動トノ中間ニ現ハレ來ルモノニシテ、經濟其物ニハアラザル也。即チ此主義ハ經濟ノ範圍以外ニ亘ツテ廣ク適用セラレ、隨テ寧ろ合理的主義ト呼バルベキモノ。動機ハ人類ヲ促シテ何等カノ快感ヲ追求セシムルモノ也。動機ハ人ヲシテ商量ヲ行ハシメ、經濟的活動ニ至ラシム。動機ハ又商量ニ其方向ヲ授ケテ一定ノ欲求タラシム。故ニ動機ハ欲求ノ原因ニ外ナラザル也。然レドモ欲求ト其充足ノタメニスル活動トノ中間ニ出現スルモノハ、タゞ彼ノ普汎的形式的主義乃チ合理的主義ノミ、而モ是レ總テノ欲求ハ完全ナル飽滿ニ至ルマデ充足シ能ハザルコト、及慾望充足ハ常ニ之ト共ニ苦痛ヲ伴ヒ其苦痛ハ分量ノ増加ト共ニ其強度ヲ増スコトノ意識ニ基クモノナリ。カクテ目的ト手段トヲ相互ニ

比較セザルベカラザルニ至ルハ理ノ然ラシムル處、從テ又經濟的主義ヲ合理的主義ト呼ブ代リニ、又之ヲ關係的主義ト稱スルヲ得ベシ。人類ハ動機ノ示ス處置ニ之ヲ實行スルニアラズ、動機ニ基イテ獲得セントスル快感トテモ無限ニ追求セラル、ニアラズ、其快感ハ先ヅ其充足ニ當ツテ支拂フベキ苦痛ト比較セラル、モノ也。關係的主義ノ用此處ニアリ。

凡ソ經濟純理ノ研究ニ於テハ、人類ノ動機ハ欲求ノ對象ト同ジク、之ヲ分割シテ考フルヲ常トス動機ハ經濟的商量ノ背後ニ存シテ、人類ヲシテ何レカノ快感ヲ追求シ何レカノ不足ノ感ヲ抱カシムルモノナリ。從テ經濟ト技術トノ區別ヲ一般のニ論ズレバ、經濟ノ目的ハ快感慾望充足ニアリト謂フベキナリ。經濟的活動ナルモノハ決シテ動機ノ種類、活動ノ内容、或ハ活動ノ對象ニヨリテ定義シ得ルガ如キ種類ノ活動ニアラズ、動機ハ常ニ經濟ノ外ニ存シ、經濟ヨリ前ニ現ハル、モノ也。(未完)